

第4回 川上村小学校統合研究委員会 議事録要旨

令和3年2月25日(木) 15:00～川上村中央公民館 大会議室

委員: 村議会社会文教委員 中嶋知明・由井元成・林公上・大西たま子、行政連絡員 小林淳・林博康・田口敏彦・中島剛志・吉澤喜雄、児童委員 油井博友・油井いずみ・鷹野智里、教育委員教育長職務代理 古原栄夫、教育委員 油井たまき・由井小百合・油井敏弘、第一小学校校長 神田博幸、中学校校長 小林俊男、川上第一小学校 PTA 会長 油井拓也、保育園保護者会長 林一幸、若妻会長 林紗央里、地域連携コーディネーター 井出和夫、

理事者: 村長 由井明彦、副村長 中島修、教育長 藤原克朗

事務局: 中嶋昌哉・宮田雅和・藤原将武・藤原英紀・若月彰一、

欠: 行政連絡員 林欽一・由井正司・井出俊司郎、第二小学校校長 佐々木哲也、川上第二小学校 PTA 会長 川上秀実、長野県公営企業管理者 小林透

1. 開会

2. 委員長あいさつ

- ・基本構想(案)の審議について 等

3. 村長あいさつ

- ・用地取得事務について
- ・基本構想(案)策定について 等

4. 議事(進行は委員長)

委員長: それでは議事に入ります。(1)用地事務の進捗状況について事務局から説明します。

事務局藤原将: (1)について説明。

- ・中学校西側を建設予定地として事務を進めている。

○質疑応答: なし

委員長: 続いて、(2)基本構想(案)について事務局から説明します。

事務局藤原英: (2)について説明。

- ・資料1により、川上村統合小学校に係る基本構想(案)について説明。
- ・資料2により、基本構想の位置づけについて説明。

事務局中嶋補足: 基本構想(案)は、統合小学校を作るうえでどういう学校を建設するかを大きな枠組みの中で策定し、具体的なことは掲載しません。統合研究委員会で案を策定し、それを今後議会等でご意見を頂き、最終的には村で基本構想を決定します。その後、基本計画を策定しそれをもとに基本計画に着手するまでを令和3年度に実施したいと考えております。

○質疑応答

委員：子どもたちのためにいい学校を作って頂きたいが、子どもが少なくなっていくという状況の中で、本当にしっかり考えていただきたいと思います。また、中学校の隣で、体育館・グラウンド・プールを全部作りますとあるが、中学校に25mプールがあるが同じ長さを小学生に作り屋根をかけてプールを作れば同じ敷地にプールが2つできるようになる。川上にプールが2つあってどれだけできるのか、しっかり検討していただいてよりよい小学校を建設して頂きたいと思います。これでまた建設委員会ができるだろうが、その中でしっかり検討していただきたいと思います。

事務局中嶋：高校においても最近では東信地方でも再編があり将来的に見ても、子ども数の減少を年頭において物事を進めないといけないという思いはあります。今回の統合についても、あり方検討委員会の中から保護者の皆さんや地域の皆さんの意見の中に、地元に残してほしい、特に今回の場合ですと第二小学校の地域の方々はそのような意見を数多くいただいております。将来的に南佐久の5町村の統合小学校が見据えられているかもしれませんが、できる限り地元で教育を学ばせてあげたいというのが、地元の方や親の気持ちではないかといったところで、今回統合小学校の検討を進めているところです。またプールにつきましても、小学校に新たに必要かと思おもいますが、小中学生の子どもたちの体格差を考えると必要な施設であるので、社会施設の使用や、最近では少なくなりましたが村外のプール教室へ通う子どももいますので、そういったことも踏まえ、施設の計画について検討していきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

委員：コミュニティスクール、地域の中の学校ということで建設を進めて行ってもらえればと思います。例えば地域の方がいつでも集える場所、いつでも地域の方が学校の中にいる学校になればいいと思います。そのためにも駐車場もある程度整備も必要なのかなと思います。

委員：安全性と安心感といったところを大事にしていってもらえたらと思います。また、児童数が減ってくるといったところを逆に児童一人一人に最適な学びの場を提供できるといいなと感じています。最終的にはすべての子どもたちが、いろんな特性を持った子どもたちいろんな事情を抱えた子どもたちがいますが、そういう子どもたちが安心して学んでしっかり力をつけて、将来川上村を支えていく人材になっていくことが大事なのかなと感じています。それとともに、地域の防災拠点となる学校、こちらも安全安心という視点でいうと学校というものが地域の中で安心や安全を生み出すという拠点になっていくという視点も大事なところかと思おもいます。

委員：公民館報から若妻会員にアンケートがありましてその意見です。

- ・親としては小学生・中学生とお互い学びあえる環境を整えてほしい。
- ・子どもがのびのび生活できてしっかり学べるようにしてほしい。
- ・なるべく早くいつ統合するかなど親に知らせて行ってほしい。
- ・不審な人物から子どもを守れる学校にしてほしい。
- ・学校周辺の用水路の転落防止策をしてほしい。
- ・通学路を広めにしてほしい。
- ・教員の数を増やして、生徒一人一人をみてほしい。サポートが必要な子もいる。
- ・パソコンのプログラミングについても設備整理や例えば中学の先生から小学生へ教えるなどしてほしい。

事務局中嶋：コミュニティスクールは、地域の方との交流や安全安心といったときに、例えば施

設面でどのような施設づくりを行えばよいか検討していかなければいけないと考えます。地域の方が集えるというのは学校にすんなり入れてしまうという面も出ます。どういう設計をすればいいかと考えて行きたいと思います。

また駐車場についても、第一小学校及び第二小学校は授業参観や入学式・卒業式の時に駐車場がなく、グラウンドを使用する状況でありますので、統合小学校の計画の中ではその辺も計画していく予定です。

若妻会からいただいたご意見について、職員で共有しています。具体的な要望もありますが、そういうところもやはり聞かないと、気が付かないということも多々ありましたので、その辺は計画の中に入れて行きたいと思うのと、定期的に館報などで周知するというのも取り組んでいきたいと考えております。それと以前委員会の時に、統合についてご承知されていない人もいますよ、ということも教えていただきました。そのあとどういう風に村民に対して周知していくか検討していく中で方法の一つとしては、発信する側と受け取る側、双方に問題があると思いますが、一つとして媒体を増やすということも必要かと、そういった中で今、カプリというものがありますが、それに加えてラインのアカウントを取ってこちらから投げかけるということも検討しております。

また、一方では学校の施設面の検討と、もう一方では学校の方針などを検討していかなければいけない、それをこのような形の大きい委員会の中で、議論していく方法がいいのか、といったところも今疑問に思っていますのでそういったところも踏まえて、4月以降どういった形がベストなのかといったところで、建設委員会を作り上げていきたいと思っていますので、ご意見等ありましたらお寄せいただければと思います。よろしくお願いします。

委員長：明確に統合が決まるのはいつごろになりますか。

事務局中嶋：いつ開校かというのを示そうと思っていますが、令和3年度に基本計画及び基本設計というところまで予算を議会に諮っていく予定でいまして、3月に村議会の定例会があります。また、3月1日に議会へ予算説明会があります。その時点で具体的なスケジュールを示すなりしまして議会への説明をもって、先ほど言われた館報の発行が3月末と聞いていますのでそれに間に合えばそこに挙げさせていただくことを現時点で考えています。この前館報編集委員の取材にも今具体的には示せませんが、議会の方にご説明させていただいた後にと、できれば3月中には、現時点での案をお示ししたいと思っています。

村長：村としては大きな学校を作りたいということはありません。10年20年先の人口の推移を念頭に入れながら学校を作っていかなければならないと、そうすると人口減少もとめどないわけですが、ある程度は余裕を持った学校ということで、決して必要以上に大きな学校を作るわけではありませんが、その辺は皆さんに理解していただきたいと思います。また、建築に当たっては、外壁はサイディングのようなものを使用するなど、ランニングコストのかからない方針、また、子どもたちがのびのびと生活できる空間等を考慮していく予定です。せっかくの機会ですので皆様方の忌憚のないご意見を頂いて、今後の参考に取り入れていくつもりでございます。また、何といたっても子どもたちの安全安心が第一だと考えています。その辺は完全に立派な施設にして子どもたちの安全安心を確保したいと考えています。学校を作るというものすごいものを作るという錯覚になるわけですが、それ相応の学校を研究したいと考えております。

委員：今日は基本構想についての討論ということになっていますが、上地区の保護者の方がい

うには、統合した場合子どもたちをバスで送り迎えすると、歩く機会が少なくなることが心配という事でした。学校に運動講師の方を呼んで、体力測定や運動講座をしているような状況の中で、日常的に歩くということは必要なんじゃないかと思います。基本計画の通学について検討していただけたらと思います。いろんな人が川上に入ってきて通学中の事故とか事件が心配されることだと思いますので、その辺は検討して子どもたちが安心して通学できるような方法とそれと併せて体力がつく通学方法を、基本計画の時に話題にして考えていただければと思います。意見をいいました。

事務局中嶋：通学方法によって体力面が心配だということは、あり方検討委員会の時のご意見にもあり承知をしています。いろいろな考え方もあると思いますが、現在の通学方法を見てどうかというところで、一般的に見ますと通える距離の子を親が送っていくことが増えたり、また、防犯の面から送っていくという保護者の方もいると思います。両面あると思いますが、世界的に見ればスクールバスというのは、日本は比較的治安はいいですが、比較的主流であると言えます。ただそればかりでなく、地域性もありますので、そういったところを建設委員会の中でいろいろなご意見を聞いて何がいいかと、学校の位置も中学校寄りになると、今大深山の子たちは小学校まで歩いて通っているがどうするか、距離的な問題も出てくるかと思いますが、具体的なことも含めまして検討していきたいと思っております。今の子ども数を言いますと、下地区6対上地区4という比率で出生されています。そうすると例えば大深山までスクールバスの通学区域にすると比率が5対5くらいになり、年間30人生まれると6学年で180人うち90人がスクールバスということになるとスクールバスが2台必要になる計算になる。そう言うところも含め、いろいろ細かいところも検討して決めていくということも基本計画の中で改めて議論をさせていただきたいと思います。

委員：現状学校の施設が老朽化しております。いろいろな面で不便といいますか使い勝手が悪いところが出ておりますので、そういう面が早く改善されることをお願いしたいと思います。そのためには統合が早く進むようになってもらえればよいかと思えます。

事務局中嶋：今申されたように施設の老朽化が著しく、先般も強風によって第二小学校のプールの屋根が吹き飛ばされてるといったところで、また修繕が必要になっています。できる限り統合を控えているのでそういった修繕費は回避したいのが実情ですが、今通学されている子どもの皆さんが不自由を生じてそれも困るといった中で、いろいろなことに判断していきたいと思っておりますので、一日も早く統合に向けて頑張っていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

委員：奨学金の充実という項目がありますが、例えば将来川上村に戻って仕事をしてくれる人には返済を半額にするとか、そういう優遇措置のある奨学金とか創設できないかと思えますがいかがでしょうか。

事務局藤原英：他町村ではそういった独自の奨学金、地元に戻ってきて就職するなどしてある程度の奨学金を減免するということをしているのも承知しています。他町村の例も踏まえましてこれからいろいろ考えて行かなければなりません。就職先が村にどれだけあるか、農家以外の子どもたちの就職先がないなかでどれだけ戻ってきてくれるか、いろいろ問題がありますので、どういった場合にそういうのが適用してくるのかを早急の検討材料にしていきたいと考えてます。

委員長：ほかに意見がないようですので、基本構想(案)はこれで策定ということになると思いま

す。

5. その他

事務局中嶋：それぞれの具体的な意見を頂きました。これらにつきましては、基本構想(案)の中だけでなく、これから事業を進めて行く中で、検討材料や参考にさせていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。今回の基本構想(案)につきましては、大きな変更等の意見はなかったということですのでよろしいでしょうか。

そうであれば議会の方に報告承認を頂きまして、村の方で策定へと手順を踏んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。最後にこの統合研究委員会ですが、本日のこの委員会を持ちまして終了とさせていただきます。

昨年には建設予定地の決定等迅速にご審議をいただきましてありがとうございました。現在のところ当初のスケジュールで事業を進められていることあらためて感謝申し上げます。

今後、先ほども申し上げましたけれど別の委員会等立ち上げまして、統合小学校の必要な事項、基本的な事項等については、協議をして、住民の皆様の意見を多分に聞いて、また、周知をしながら進めて行きたいと思っておりますので今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

今回の委員会では基本構想(案)を策定頂いた形です。この案を議会の方に説明させていただきます。その後異論等なければ、それを今度村が基本構想と決定して、村民の皆様に周知するという予定でいます。ですので、この委員会では基本構想(案)、村で基本構想を決定するという流れですのでよろしくお願いいたします。

○質疑応答：なし

委員：親からすると小学校を統合するというのは決まっているので、統合するまでの間に第一小学校・第二小学校の児童たちが合同で授業や行事をすり合わせていくことを検討して頂けたらと思うので、よろしくお願いいたします。

事務局藤原英：先ほど話にあった公民館報の取材の時も若妻会の皆様からいろいろな意見をいただいています。第一小学校のいいところ第二小学校のいいところがありますので、保護者の皆さんが集まってそれぞれの学校のいいところを語り合って、プラスアルファしてさらにいい学校にしていくという場をこれから作っていければと思っています。保護者の皆様が、大勢参加できる場で、統合したあかつきにはというテーマで話す場を設けたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局中嶋：スケジュールによりますが、例えば来年度から開校します、来年度から皆さん一緒ですと言われても、保育園では一緒の子どもたちかもしれませんが、久々に会うということもありますし、成長もされていますので、例えば一年前二年前になったらそういう交流の機会を学校の教育課程の中に組み込んでもらって、慣れるといいますか友達になるということということも加えて行ったらどうかと思います。そういうところも学校の先生や教育委員会と打合せて行きたいと思っております。また、何年後かということにもよりますが、今の小学校の保護者の皆様のご意見も当然必要ですし、今本当に小さいお子さんのいる親御さんたちの意見も、その子どもが大きくなって入る学校でもありますので、幅広く意見を聞いていければと思っております。

よろしく申し上げます。

委員：現状のクラスは少人数学級にも満たないクラスで、統合されて初めてグループ学習ができる規模にやっとなることをご理解いただきたいと思います。これから求められる子どもたちの能力は、それぞれの小学校の目標として掲げられていますが、社会性ですよ。特に川上村の子どもたちに足りないものは何かといったときに大勢の人の一人一人の意見を聞いて自分の考えを作るとそれを発表して、またほかの子はその意見を聞いて考えてという繰り返し、という社会性を作っていくためには、今は先生方の熱い個別の指導、目が行き届くということですが、子どもたちはお互いの中で、切磋琢磨いろいろな経験を踏んで成長していくということです。それを実現するためには、今の規模ではダメなんだと、先生方は少ない人数の中で試行錯誤しながら子どもたちの成長を指導していくという状況にあるが、川上の現状はそうなんだということをご理解いただきたいと思います。結局そういう少人数のクラスが続いてきたということで、それが当たり前だという風に思ってしまうかもしれませんが、それより先にまだ、もう少し人数増えればもっといいことがあるんだよという風な親御さんの意識が川上村の中でできて行けば、みなさんが心から賛同してくれる学校になるんじゃないかなと思います。それはあり方検討委員会の中で出た話ですが、そういうことのご理解が村民の皆様に行き届いてないかなと思いますので、これから建設委員会になっていくと思いますけど、そういう部分を考慮しながら、話を進めて行ってもらえればと思います。

○質疑応答（全体を通して）：なし

村長：ここでいろいろ意見と言ってもなかなか言えないと思います。家に帰って思いついたらぜひ箇条書きでも構いませんので、役場の方へ届けて頂いたら意見を参考にしながらやっていきたいと思えます。

副村長：大変お疲れ様でした。今日基本構想(案)をこの場では認めていただきました。ありがとうございました。またこれから具体的な建設に向けた基本計画、基本設計そして実施設計と移っていきますが、この基本構想が一番の学校方針の基盤となるものであります。その辺のところが落ち着いたということで安堵しているわけですが、ここにお集まりの現委員の皆様には今後も引き続き学校統合に向けてしっかりと見守っていただけますことをお願い申し上げまして私からの一言とさせていただきます。

教育長：たくさんの意見ありがとうございました。私たち教育委員会の方も統合に向けていろいろ検討していきたいと思えますので、いろいろな場面でたくさんの意見を出していただきたいと思えます。思いついたことなんでも結構です。たくさんの意見を頂いて、そこからまた新しく本当にいい学校を作っていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。

委員長：本日は大変お忙しい中、委員会に出席していただきまして貴重な時間、また貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。以上をもちまして川上村小学校統合研究委員会を終了させていただきたいと思えます。皆様には候補地の選定、基本構想(案)の策定など当委員会にご協力いただきまして誠にありがとうございました。大変お疲れ様でした。ありがとうございました。